

TOPICS

トピックス

活動やイベントをご報告します

EVENT

「私たちは、忘れない。」
～未来へつなげる防災減災プロジェクト～

気持ちは一つ。
「共に未来へ」

日本赤十字社は、震災の記憶の風化を防ぎ、復興への思いを未来へとつなげていくプロジェクト「私たちは、忘れない。」を3月に全国で展開しました。

愛知県支部でも、親子で

防災・減災について考えてもらうイベントを県内各地で開催し、防災啓発と義援金の協力を呼びかけました。

また本プロジェクトに賛同いただいた県内の企業・団体の皆さまにも協力いただき、従業員によるプロジェクトバッジの着用や、キャンペーンポスターの掲示など、被災地支援の輪を広げていただきました。

フジテレビで
キャンペーンの様子を
動画でチェック！



講習体験をする、名古屋グランパス
松本選手と新井選手
※動画の視聴方法は下記をご覧ください。



賛同企業一例（敬称略）／アクアサポート・ICHIDA、イマダ、S-point、大羽精研株式会社、榊原建設、佐々木繊維、三連ネオフェニックス、サントリー酒類、東海北陸営業本部、J-STYLE、眞照、精器商会、大和エネルギー、トーヨーメタル、豊橋市国際交流協会、中西電機工業、名古屋オーシャンズ、名古屋グランパス、名古屋国際センター、ナリス化粧品、中部営業部、物語コーポレーション、山善、名古屋営業本部、ヨシノ印刷

REPORT

平成29年度一般社団法人中京馬主協会助成事業

名古屋第一赤十字病院
名古屋第二赤十字病院
医療機器の整備

毎年、一般社団法人中京馬主協会様の助成事業により、名古屋第一赤十字病院及び名古屋第二赤十字病院に医療機器の整備をしていたいております。この助成事業は、馬主の皆さまが「自分たちの手で、目に見える形で社会福祉に貢献したい」と始められたもの。日頃の地域

社会に対する貢献を認めていただき、毎年助成を頂いています。

平成29年度、第一病院には12月21日にライカマイクロシステムズ株式会社製自動免疫染色装置一式、第二病院には12月28日にアトムメディカル株式会社製保育器3台が整備されました。

心より感謝申し上げます。馬主の皆さまの想いとご厚意に応えられるよう、両病院で有効に活用させていただきます。



自動免疫染色装置（左）／採取された検体をもとに、病理医が腫瘍の正確な診断を遺伝子レベルで実施するための組織標本を作成する装置で、病理診断を行う上で欠かすことができない。
保育器（右）／従来と比べ、新生児への音刺激・温度低下・光刺激などのストレス軽減や、安定したポジショニングサポートにより、保育環境が大幅に改善。新生児ケアの快適な操作性と安全性の向上が実現。

REPORT

長久手市赤十字奉仕団
独居高齢者交流会

一人暮らしの高齢者を
おしゃべりと料理で笑顔に

長久手市赤十字奉仕団は、定期的に市内の一人暮らしの高齢者を招いて交流会を実施しています。今年2月の交流会では、団員が朝から準備したイワシフライと炊き込みご飯に、参加者は舌鼓。おいしい手作り料理を喜んでいただけたようです。

食事後は健康生活支援講習も実施。簡単ストレッチを体験いただき、健康生活維持の一助となりました。



手作り料理とおしゃべりに、参加者はこの笑顔

REPORT

稲沢市国府宮はだか祭り

不慮の傷病者の救護で
祭りを支えています

愛知県支部では、多数の人が集まる公益的な行事やイベントに、救護員を派遣し、不慮の傷病者の救護を実施していますが、2月28日に開催された国府宮はだかまつりでも行いました。

約8100名が参加した同祭りでは、名古屋第一赤十字病院の医療救護班、支部職員、そして尾張赤十字救急奉仕団による救護所を設置し、参加者や見物者の方に医療救護活動を実施しました。



裸男たちを救護し、迫力満点の祭りをサポートしました

災害に対応する力を地域で育む！～愛知県支部の取り組みから

PICK UP *01

地域での活動を円滑に！
防災ボランティア養成研修会

ボランティアが各地域での活動を円滑に実践できるよう、防災ボランティアの養成に取り組み、災害時に必要な技術や知識を身につけるための研修会を開催しています。



PICK UP *02

楽しみながら災害適応力向上！
学校現場の防災教育プログラム

日本赤十字社は東日本大震災をきっかけに、「まもるいのち ひろめるぼうさい」という防災教育プログラムを、全国の小学校、中学校、高等学校を中心に展開しています。また、愛知県支部が防災教育を目的として企業と共同制作した「いえまですごろく」も、多くの学校で活用されています。



PICK UP *03

子どもや高齢者を災害から守れ！
地域奉仕団による講習普及活動

講習指導員のいる地域奉仕団は、地元地域の保育園、幼稚園や老人福祉施設などの活動場所を見つけ、講習普及活動を展開し、少子高齢化の進展や防災・減災への意識が高まるなかで、子どもや高齢者を守ろうとする社会のニーズに応えています。



いえまですごろく。コマを進めることで、災害を疑似体験し、防災の知識を学ぶことができるボードゲーム

平時の活動が緊急時の礎に
日本赤十字社の使命の一つ
地域の「自助」「共助」力の
強化に向けて

クローズ
アップ
CLOSE UP

日本赤十字社の活動は、災害時や非常時などにクローズアップされることが多いですが、なにもない「平時」の活動こそがとても重要です。「いざという時」一つでも多くの命が救われるために「日ごろから行っている活動の一部を」紹介します。

経験が物語る
「自助」「共助」の大切さ

災害が大規模になるほど、災害が発生した直後に亡くなる犠牲者が多く、公的機関など外部の支援で救える命は少なくなります。

では命を救う担い手は誰か。

阪神・淡路大震災では、兵庫県神戸市の被災者の約8割が、地元住民によって救助されました。東日本



01.02 一人ひとりが日ごろから意識を高めることが何より大切です

目指すは災害対応力の向上
様々な視点で活動

地域の「自助」「共助」の力を強くするには、意識を高めた知識をつけた訓練したりといった、日ごろの取り組みが重要です。日本赤十字社愛知県支部は、愛知県内皆さまの災害対応力を強くしたいと願い、様々な角度から、いろいろな方を対象に活動を行っています。

例えば、災害時に率先して活動できるボランティアの育成、災害時要支援者といわれる子どもや高齢者を対象とした講習、学校と協同して行う教育プログラム、外国人を対象とした母国語での講習などです。いずれも、住民一人ひとりの防災減災力を高めることが目的。日ごろからの意識づけや訓練が、いざという時に多くの命を救います。今後、その使命をまっとうすべく、活動を続けていきます。

身近な
防災力アップが
とても大切



動画の視聴方法

① 右の二次元コードからフリモARアプリをダウンロードして起動

② マークがついた写真にスマホをかざすと、スキャン後動画が始まります



写真が動き出す!?
スマホで動画をご覧いただけます!